



専務取締役
小松 周吉
Syuukichi Komatsu

山洋電気テクノロジーセンターの竣工にあたって

かねてより念願の、「テクノロジーセンター」が竣工し、去る7月22日に竣工式を済ませた後、引き続いて設計・開発部門、生産技術開発部および試作部門の移動を行ない、8月初めから「テクノロジーセンター」における業務を開始しました。

振り返ってみますと、長野県が上田市にリサーチパークを建設して、分譲が行なわれたのは、今から6年前の1991年9月でした。9月17日に長野国際会館で、県商工部と分譲契約を行ないました。その席で、リサーチパークに対する抱負についての質問がありましたので、「当社の方針としまして、リサーチパークの名にふさわしい、設計・開発部門を集約するつもりである。」と、話しました。その後は、いわゆる「バブル崩壊」を経ながら、ここに、念願の「テクノロジーセンター」が竣工しましたことは、誠に感慨深いものがあります。

「テクノロジーセンター」建設に当たっては、設計者を始めとする関係者の要望を広く集めたい趣旨で、2年前に「リサーチパーク設計準備委員会」を作りました。それから、この準備委員会では、いく度かの熱心な会議をもって「リサーチパーク建設基本構想」をまとめました。すなわち、基本理念として、リサーチパーク建設コンセプトは、

「私たち山洋電気は、リサーチパークの素晴らしい自然環境を、最大限に生かし、世界の最先端の技術で、価値創造型の製品を生みだす、快適で働きやすい仕事の間とするとともに、生きがいのある人間形成の間としての研究・開発施設を建設する」とし、また、建設基本方針として、

- 当社の工場配置における設計・開発の中心拠点とする
- 新しい設計・開発の基本方針にのっとった関連部門を移動する
- 生産部門は考えない
- 自然環境を生かし、創造的な思考のできる環境作りを行なう
- 最新のマルチメディア技術を駆使して設計・開発業務の効率化を図る
- 上田リサーチパークの景観など環境作り方針を遵守する
- 2001年長期計画を見込んだ人員規模を想定する

としました。

この基本構想を基に、設計・開発部門の問題点とその対策について検討を行ないました。設計・開発業務に携わる人達には、自分の仕事に没頭できるいわゆるフロー状態になって貰うことが、必要不可欠であるので、そのための環境作りを、もっと具体的に、次のように整理してみました。

環境的には、

- 静かで、中断されない、創造的な思考のできる環境

- 快適で働きやすいゆとりのある環境
- リサーチパークの自然にマッチした環境

整備施設的には、

- コミュニケーションしやすいリフレッシュルームなどの充実
- 運動のできる福利厚生施設、仮眠室、休憩室などの心身のリフレッシュができる施設
- 特許情報、技術情報、図書などの一元管理のできる図書室や社員研修施設
- 最上階に定時後も利用できるレストラン的施設

などを実現させたいということでした。

さて、このようにしてできあがった「テクノロジーセンター」は、当社の企業理念「全ての人々の幸せをめざし、人々とともに夢を実現します」を具体的な形あるものに実現したひとつとなりました。

なぜならば、この「テクノロジーセンター」が素晴らしい建築物であるというだけでなく、ここに約400名のエンジニアが集まり、心をひとつにして人間のために技術を役立てようと熱意を結集した新しい世界を作っているからです。これは数字では表すことはできませんが、尊さにおいては無限に大きな新たな価値であると思います。

おわりになりましたが、竣工した「テクノロジーセンター」は、上記のようなコンセプトを100%満たしたものになりました。このように、素晴らしい建物と、自然環境を配慮されて設計・施工に当たられた、NTTファシリティーズ様、竹中工務店様をはじめ、関係会社の方々に深く感謝申し上げます。
